

筋肉注射による和痛分娩について

当院では自然分娩を基本としています。合併症がなく、分娩が正常に経過している場合は、自然分娩が最も母児にとってリスクが少ないからです。しかし、分娩中に痛みへの不安や恐怖感、あるいは陣痛による強いストレスが母体に長時間かかることで、お産がスムーズでなくなるケースも見受けられます。そのような場合に何らかの方法で痛みを緩和することは、安全に出産する一つの方法と考えられます。

そのため最近では、硬膜外麻酔による無痛分娩も、多くの施設で実施されるようになりました。無痛分娩の最大のメリットは陣痛を感じなくなることですが、それと同時に様々なリスクを伴います。(絶飲食・床上安静になることでの分娩遷延、吸引分娩率の上昇、分娩時の出血量の増加、母体の低血圧、尿閉、頭痛、嘔気、まれに発熱、硬膜外血腫、神経障害、麻酔薬の胎児への移行など)

そこで当院では「筋肉注射による鎮痛剤を用いた和痛分娩」を実施することとしました。麻酔ではなく鎮痛剤ですので、痛みは無くなりませんが、無痛分娩のような硬膜外麻酔によるリスクはありません。しかし副作用として眠気、浮遊感、めまい等が起きることがありますので、和痛をすることで逆に分娩が遷延する可能性もあります。その為、極めて順調な分娩進行中に、和痛を行うことが分娩の妨げになると判断した場合は行いません。

更に、より安全に対応するために、当面の間はスタッフが確保できる平日日中に限らせていただきます。2回以上使用する場合は、4時間以上間隔を開けて使用します。効果には個人差もあります。実施にはその他に以下のことを条件とします。

- ・正期産(37週以降)で有効な陣痛がきており、子宮口が概ね7センチ以上開大している。
- ・ぜんそく等、呼吸器疾患が無い。
- ・母体のバイタルサイン(熱・血圧・脈拍・呼吸など)に問題が無い。
- ・1回の注射につき 9000円(非課税)が自費負担となる。

以上ご理解いただき、和痛分娩の希望がある際は、分娩時に助産師にお申し出ください。

